

白山LCブライダルチェック (¥33,150)

症状等がある場合は、保険適応になる場合があります。

検査項目

経膈超音波	子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮内膜症や卵巣嚢腫など子宮や卵巣の病気がないか、また生理周期、排卵周期が順調かなどを調べます。	
子宮頸がん検診	子宮頸部のがんや前がん状態（異形成）の有無を調べます。子宮の入り口を柔らかいプラスチック製のブラシや綿棒でこするだけです。通常、痛みはありません。	
淋菌・クラミジア	クラミジア、淋病に感染していないか、おりものを採取します。不妊症や子宮外妊娠、流産や早産の原因となることがあります。	
HPV検査	子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルスに感染していないかの検査をします。感染が確認された場合、精密検査が必要になります。この検査と子宮頸がん検診を併用することによって、子宮頸がんの検診精度が高まります。	
血液検査	AMH (抗ミュラー管ホルモン)	卵巣にどれくらいの卵子が残っているかを調べる検査です。
	TSH (甲状腺ホルモン)	生理不順や流産の原因となる甲状腺疾患の有無を調べます。
	HBS (B型肝炎)	B型肝炎ウイルスの感染を調べる検査です。母子感染を防ぐためにも欠かせない検査です。
	HCV (C型肝炎)	C型肝炎ウイルスの感染を調べる検査です。母子感染を防ぐためにも欠かせない検査です。
	HIV (エイズ)	HIV (エイズ) の感染の有無を調べる検査です。母子感染を防ぐためにも欠かせない検査です。
	RPR・TPHA (梅毒)	梅毒はトリポネーマ・パリダムという微生物による感染症です。最近では潜在的な感染者が増えているといわれています。流産や死産の原因になること、また胎盤を通じて胎児に感染すると先天梅毒を発症することがあります。
	風疹抗体検査	妊娠中に風疹に感染すると、おなかの中の赤ちゃんにも感染し、先天性風疹症候群（白内障や緑内障、先天性心奇形、感音性難聴）になることがあります。約20%の人は風疹抗体価が低いため、風疹に感染する危険性があります。妊娠前に風疹抗体検査をし、抗体価が低い場合には、ワクチンを接種しておきましょう。

オプション項目

血液検査	麻疹抗体検査 ¥2500	血液検査で麻疹に対する免疫の有無を調べます。妊娠中に感染すると流産率が高くなると言われています。催奇形性に関しては否定的です。
	トキソプラズマ ¥2600	トキソプラズマ抗体（免疫）の有無を検査します。妊娠中に感染してしまうと、流産、早産、胎児異常などの可能性があります。抗体がない場合は感染予防のため、野菜や果物はよく洗う、食肉は十分に加熱して食べる（生ハムなどは食べない）、ガーデニングや土や砂に触るときは手袋をするなど注意することが必要です。また猫はトキソプラズマの終宿主であるため妊娠中に新しい猫を飼わない、生肉をエサで与えない、飼い猫を外飼いしない、猫用トイレは毎日清掃する（手袋、メガネ装着）、清掃は可能なら妊婦以外が行う、手洗いをこまめにする、など注意が必要です。
	パルボウイルス（B19） ¥7000	りんご病の抗体（免疫）の有無を検査します。妊娠中に感染すると胎児異常（胎児貧血、胎児水腫、あるいは胎児死亡）の可能性があります。ワクチンや治療法が無いため、妊娠中に感染しないことが大切です。抗体がない場合、児童との接触を控えることをおすすめします。同居者に感染者がいる場合は妊婦への感染の危険因子となることがあります。飛沫感染すると考えられているためマスク、手洗いなどの感染予防に努めましょう。
	水痘・帯状疱疹ウイルス ¥2500	水ぼうそうの抗体（免疫）の有無を検査します。妊娠 20 週までに感染すると 2% が先天性水痘症候群（癩痕性皮膚病変、小眼病、白内障、脳損傷、四肢形成不全等）になると言われています。また、妊娠中期～分娩前 2 週間に感染すると産後、乳児が帯状疱疹に罹患してしまう可能性があります。
	サイトメガロウイルス（CMV） ¥4000	サイトメガロウイルス抗体（免疫）の有無を検査します。妊娠中に感染すると、赤ちゃんが難聴等の障害を持って生まれてくる可能性があります。また、流産や早産の原因にもなります。現在ワクチンや治療法が無いため、妊娠中に感染しないことが大切です。このウイルスは乳幼児から感染することが多いため、抗体がない場合は感染予防として乳幼児の尿や唾液との接触を避けることや尿や唾液に触れたときの手洗いの励行に努める必要があります。妊娠中に感染が疑われる場合は、出産後赤ちゃんの感染の有無を検査して早期発見に努める必要があります。母親が感染している・いないに関わらず、0.31%（300 人に 1 人）の先天性 CMV 感染が確認されたという報告もありました。
乳腺超音波 ¥8100	乳腺超音波検査は、マンモグラフィーのような微細なしこりや石灰化を写すことには適していませんが、乳房の内部構造を観察しながら、触診では検出できない小さな病変を見つけることができます。痛みはなく、X線を使わないので、被爆の可能性はありません。妊娠・授乳中でも検査が可能ですが、妊娠 10 週以上の方や産後半年以内の授乳中の方はエコーが見えにくいことがあることをご了承ください。	

※検査結果は2週間後にお伝えします。